

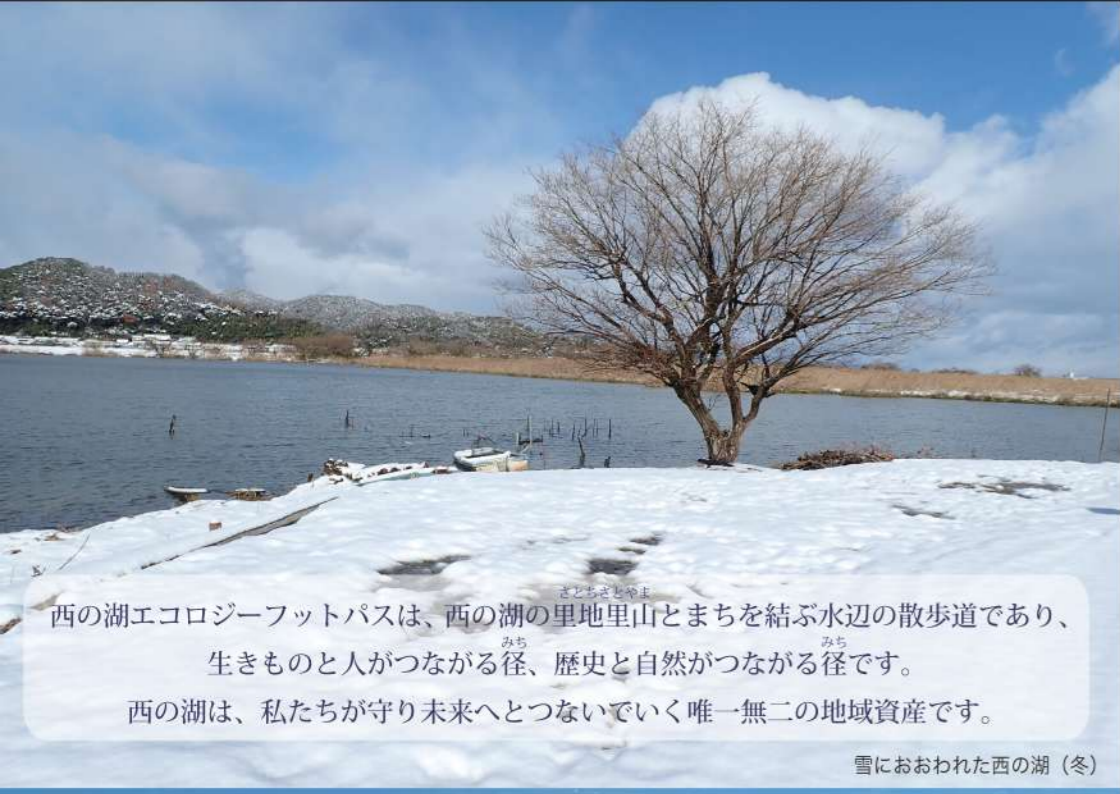


西の湖エコロジーフットパス・マップ Ecology Footpath Map of Nishino-ko

上空から見た北之庄沢 (夏)



夕焼けの八幡山と水田 (春)



雪におおわれた西の湖 (冬)



安土山上空から見た西の湖と琵琶湖 (秋)



西の湖に浮かぶ田んぼ「権座」で米づくり
おおにしみのる
大西 實さん
(白王町在住/権座・水郷を守り育てる会)



詳しくはこちらを見てね!

かつて西の湖には、舟でしか行けない島状の「田んぼ」が7つありました。先人たちが大きな石を運び、ヨシ地の周りに積み上げ泥をかき上げ開発した汗と涙の結晶です。

今はただ1つ「権座(ごんざ)」が残るのみとなっています。周りの陸地から離れているので、ふつうの田んぼよりも農作業には3倍も手間がかかります。その甲斐あって、この15年ほどの地域づくりの成果で、村づくりのシンボルとして注目されるようになりました。



年々、子どもたち世代も地域に戻ってきてくれています。

連絡先：近江八幡市白王町集落営農組合
☎ 090-8124-7649 (大西)
<https://gon-za.sakura.ne.jp/>



権座(ごんざ)は、人が造った島状の田んぼです。周りとは、道でつながっていません。昔は田舟を2〜3艘つないで牛を選びました。今では牛が機械になりましたが、同じようにして運びます。収穫したお米も舟で運びます。



権座のまわりの岸边には、一抱え程の石が積みまわっています。これらは、すべて周りの陸地から田舟を使って人が運んだものです。同じように土も運ばれました。昔は、このように造った田んぼが7箇所ありました。

写真：対岸より権座を望む(上)
権座から収穫した米を田舟で運ぶ(中)
権座の石積み護岸(下)



西の湖には宝物がいっぱい
ヨシ原湿地から未来が見える
かわい つくお
河合 嗣生さん
(西の湖・蛇砂川いきもの観察の会)



詳しくはこちらを見てね!

月に一度、西の湖・蛇砂川いきもの観察会を始めて15年が経ちました。季節や天気、時間帯によっても出会う生きものが違うので、同じ道を歩いても毎回違うおもしろさがあります。この間に一度しか出会えない鳥もいました。定期的に同じ場所を歩くと、景色や空気や草花の様子も変わっていき、季節が巡っていくのが感じられます。

西の湖の周りには、ヨシ原や田畑があり、ヨシ焼き後の湿地やトラクターが掘り返した畑には、カラスやトビがエサとなる小動物や昆虫を捕えるために集まります。そのような時、ヒトの暮らし・歴史の生きものの関わり合いの深さに気づきます。西の湖を歩いて生きものや季節の移り変わりを感じながら一日を過ごす、ここの環境は、私たちヒトだけのものではないことにあらためて気づきます。

生きものを観るといことは、私たちの暮らしのあり方を考えること。ヨシ原湿地の向こうには、未来の暮らしが見えるようです。

(環境カウンセラー/造園家)
連絡先：西の湖・蛇砂川いきもの観察の会 Voriesnomori@gmail.com



琵琶湖とつながっていた内湖のほとんどが消失してきた状況下において、最大の内湖として西の湖が残ったことは奇跡的です。さらに、西の湖一帯が人の生活のために豊かな場所であったことは、古く縄文時代にまで遡ることもわかります。西日本最大のヨシ材生産地としても知られています。



ヨシ原湿地が健全に残ることで、多くの野生生物の生活の場として、他に代えることのできない自然環境が維持されてきました。四季を通じて多くの野鳥が、ヨシ原湿地にやってきます。ヒトと野生生物の共生、未来の環境や暮らしのあり方を考えることのできる場所です。

写真：冬のヨシ原と蛇砂川(上)
夏のヨシ原を代表するオオヨシキリ(夏鳥・ヨシキリ科)(下)



夏の使者「ツバメ」
ヨシ原はツバメの楽園
みき たけお
三木 勇雄さん
(安土町下豊浦在住)



詳しくはこちらを見てね!

ツバメは春になると、越冬していた南の国から、子育てのために日本に戻ってきます。4月上旬頃から民家の軒下などで巣作りを始め、つがいになって卵を温め、ヒナがかえると3週間くらいエサの虫を与えつづける姿が街中で見られます。その後、多くは2回目、ときには3回目の子育てをします。子育ては夏の時期まで続きます。

ツバメは、夜には安全な場所で眠ります。その場所を「ねぐら(巣)」と呼びます。西の湖はその代表的な場所です。早朝に飛び立ったツバメは、一日の行動を終え日暮れどき(刻)にふたたび「ねぐら」に戻ってきます。広い西の湖では「ねぐら」の場所が変わることがありますが、なぜなのでしょう。「ねぐら」に入る直前にはおびたしい数のツバメが上空を乱舞します。西の湖の湖面を行ったり来たりする姿も見ることができます。



「ねぐら入り」とは、野鳥が安全に夜を過ごす場所にやって来ることを言います。

ヨシ原の湿地や水面には、イタチやキツネなどの捕食者も容易に近づくことができます。たとえ近くに来たとしても、ヨシの茎に登ったとしても、ツバメ達はすぐに気づくでしょう。ヨシ原は、ツバメが安全に夜を過ごすには最適な場所です。スズメもねぐらとして利用しています。



ツバメが夕陽を背景に空一面、何層にもなって飛び交うシーンを見ると声も出なくなります。ヨシ原の上を行ったり来たりしながら舞うように集まった群れは、あつという間にヨシ原の中に入ります。まるでそれまでのシーンが現実ではなかったかのように静かになります。

写真：ヨシ原の上を飛び交うツバメの群れ(上)
ねぐらのヨシの茎にとまるツバメ(下)



おどり
「推し鳥」たちに魅せられて
ヴォーリズの森環境サポーター
(近江兄弟社中学校1年生)

西の湖には、いつも出会う留鳥や季節によって出会う渡り鳥など、色々な「推し鳥※2」が姿を見せます。「推し鳥」たちは、翼を広げて見せてくれたり、頭上を群れて飛んでくれたり、足跡や空巣を残してくれたら、キレイな歌声を聴かせてくれたりします。双眼鏡越しに振り向いた「推し鳥」と目が合った時は、「ファンサ」もらった!とホクホクな気分。猛禽類の食事シーンをみんなで眺めたり、狩りの様子を見守って、成功したら「おお〜!」失敗したら「頑張れ〜!」と声をかけます。その日、どの「推し鳥」に出会えるのかは、季節・天候・風向き・時間帯によってさまざま。その季節の西の湖のスターたちに次々と出会う日もあれば、誰も姿を見せない日もあります。だからこそ、自分の「最推し」に出会えた時はとても嬉しくなります。

※2 推し(おし)：主にアイドルや俳優について用いられる日本語の俗語であり、人に薦めたいと思うほどに好感を持っている人や対象のことをいう。ここでは一番好きな鳥をさします。

私たちが目指す2つの目標



SDGs(エスディーゼーズ)とは、世界中にある環境問題・差別・貧困・人権問題といった課題を、世界のみんなが2030年までに解決していこうという計画・目標です。



マザーレイクゴールズは、「琵琶湖」を切り口とした2030年の持続可能社会へ向けた目標です。



大神ヨシを育てる西の湖
円山町でヨシ地を継承する
にしかわよし
西川 嘉武さん
(葭嘉 西川嘉右衛門商店 第十八代)



詳しくはこちらを見てね!

円山のヨシ地でとれるヨシ(葦・イネ科の植物)は、昔から「大神ヨシ」と呼ばれました。およそ10軒のヨシ屋によって、ヨシ刈りやヨシ焼きを一緒に行う地域の家々とともに、古くから維持・管理されてきました。刈ったヨシは高級ヨシ材として、地域内外に出荷されてきました。時代が移り、生活スタイルが変化する中ではありますが、将来にわたり「文化的景観」としてのヨシ原が良い環境で続いてほしいです。

生態系や地球環境にとってヨシ原の存在は、貴重であり、鳥や魚、もちろん人間にとっても必要です。これからも美しいヨシが育ち続けてほしいと願っています。

連絡先：葭嘉 西川嘉右衛門商店 ☎ 0748-32-2177 FAX 0748-32-0570
近江八幡市円山町 188



ヨシ(アシ)は、湿地や水辺に生育するイネ科の多年草植物です。古代から人間の生活には、欠かせない植物です。植物名(※1)は「アシ(芦)」、人の生活の中では「ヨシ(葦)」、屋根材になると「カヤ(茅)またカワガヤ」と、人との関係で呼び名が変わります。もともとの名前アシは、「悪し」に通じるため、ヨシ(良し)と言い換えられました。良質なヨシ材を永続的に得るために、ヨシ刈り〜ヨシ焼きを適切な時期に行い、守り育てていく必要があります。ヨシ原には、多くの野生生物が生息しています。夏鳥の繁殖地やねぐらとして、さらに多くの水鳥や希少な冬鳥の越冬地として貴重な場所となっています。



写真：早春に行われるヨシ刈り(上)
刈り取り後に行われるヨシ焼き(下)
※1：和名は、日本野生植物図鑑、牧野日本植物図鑑による。(写真解説：河合嗣生)



西の湖のここが大好き
私たちのおすすめポイント
近江八幡市立安土小学校4年生の皆さん

第1位 「西の湖すてーしょん」
西の湖を一望できます。夕陽もとても美しいです。散歩後の休憩もできます。

第2位 「ヨシ原」
いろいろな生きものががすんでいます。またヨシのことを色々知ることができます。

第3位 「和船と船乗場」
船に乗って西の湖を行き来すれば、視線が水面と近くて、水面に映る光がきれいです。

西の湖すてーしょんからみた夕焼け



重要文化的景観や
地元の歴史的風景について
近江八幡市



ヨシについて
(公財) 淡水環境保全財団



近江八幡の観光や
路線バス情報について
(一社) 近江八幡観光物産協会



MLGs (Mother Lake Goals) について
MLGs WEB